

# 設楽の賢人（木匠 安藤守人）

本誌第十一号(平成二十二年一月十四日発行)で、設楽町が生んだ堂宮大工の匠 本間兼五郎氏(旧姓遠山・長江出身)について紹介させていただいた。

本誌十七号(平成二十三年十二月十五日発行)では、同郷の本間兼五郎を頼って上京し、現・日本大学理工学部建築学科で建築学を極め、国宝姫路城の昭和の修復工事の主任として活躍した加藤得二氏を紹介した。



加藤得二の生家(設楽町清崎)

今回は、同門の匠で安藤守人氏について少し記したいと思う。安藤守人氏の生家は、設楽町

八橋の安藤茂雄宅で兼五郎氏の甥にあたる。設楽ダム建設のため立ち退き解体され今は無い。安藤茂雄さんは、私と親しくしていたので、守人さんの話を聞きたいと申し込んだところ、快く引き受けてくれた。しかし、

移転で忙しく働き過ぎたのか、お話を聞くことができず、詳しく記すことができないが、加藤建夫氏の文献から引用し紹介したい。

・明治四十二年 愛知県北設楽郡設楽町八橋字崩沢四・三  
父 安藤松太郎 母 つやの次男として出生。

・大正十三年三月〜昭和四年二月まで本間兼五郎につき現場で主に次のような実地体験を積む。

重要文化財 勝常寺薬師堂(会津中央薬師)・東京都 円融本堂・福島県 八葉寺阿弥陀堂・山梨県 山梨岡神社本堂・千葉

県 西願寺阿弥陀堂・静岡県 本興寺等の保存修理工事に従事し建築実地を習得。

・昭和四年三月一日〜昭和五十四年十二月明治村移築工事等  
に関与し、明治村を退職(七十歳)。

また重要文化財については、

山形県水上八幡神社本殿助手を皮切りに全国の重要文化財、国宝等貴重建造物の保存修理工事に携わり、以来、国宝岩手県中尊寺金色堂、経蔵修理工事助手、法隆寺国宝保存工事、愛知県では国宝金蓮寺阿弥陀堂修理工事や国宝犬山城天守閣修理工事で主任を務め、犬山城築城にまつわる定説を覆すような発見もあり学会を驚かせた。

また、重要文化財の修理は三十有余件に及び、重要な建築物等々の保存修復活動を全国的に展開をし、昭和六十二年十二月十日永眠、享年七十八歳 合掌。

三回にわたり設楽町が生んだ日本の重要建築文化財の修復に携わった三賢人について紹介させていただいた。世間はもとより地元にもあまり知られていないが、その存在は大きく、このような素晴らしい活躍をされた方々を誇りに思い、感謝して筆を止める。



安藤守人の生家(設楽町八橋字崩沢)。  
現在は、設楽ダム建設のため解体されて無い。

(文化財保護審議会委員

村松豊太郎)

